

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2016年5月1日発行 第73号

タイ便り

バンコク在住の西川会長から

皆さん、こんにちは。タイは1年で最も暑い時期を迎えました。毎日、うだるような暑さなのですが、日本のじめっとした暑さと違い、こちらの夏は風が吹くことが多く、また一旦デパートや電車の中に入ると強烈な冷気に襲われることもあって、日本の夏よりましかと思って暑さを楽しんでいます。

さて、私事ですが、去年ごろから仕事の関係でチェンマイへ行くことが多くなりました。チェンマイと言えば、タイ第2の都市（と言っても人口規模では2位以下）でもあり、寺院仏閣の多い古都としても知られています。そんな町に私の勤務する日本語学校が分校を作ることになったのです。

バンコクにいと、日系企業、日本食レストランの数など、日本の存在感を日々ひしひしと感じていて、日本語教育熱にもまだまだ勢いがあると感じることが多いので、同じような期待を持ってチェンマイへ行って見たのですが、少々肩透かしを食らってしまいました。バンコクとその周辺には2,000社以上の日系企業が存在するそうですが、チェンマイには60社。日本人を見ることはありますが、観光客で圧倒的な存在感を見せるのが中国人。日本人もいるにはいるけれどもその多くは退職してチェンマイでロングステイを楽しもうというシニア層。チェンマイの大学、学校を訪問しても皆口をそろえて、「学生が減っています」と。そんな中、私たちは前途に一抹の不安を感じながら、それでも粛々と開校準備を進めていたのです。ようやく校舎も完成し、PRを始めたころ、開講の予定地の目の前にある高校に通う男の子が学校に顔を出すようになったのです。まず、学校についての問い合わせ、またある日はコースについて、また授業料について、またある日は「いつ始まりますか」、そして、またやってきて「工事は終わりましたか」と、何度も何度もやってきて学校のことを聞いてくるのです。学校に入ってこない日も、敷地の外から学校のほうを眺めて、それから帰路につくという日々が続きました。

そのうち、彼の身の内がわかってきました。彼は、目の前の高校に通う高校3年生。両親はすでに離婚していて、父親が日本で働いていること、離婚したけれども父親とはまだ連絡を取っていつか日本へ行ってみたいこと、だから自分で本を買って日本語を勉強しているけれども日本人の先生に習ってみたいこと。しばらくして、無料の体験授業をやり始めると、彼は何度もそれに参加するようになりました。内容は毎回同じだということに、それでもいいから席があったら是非参加させてほしいと言って毎回目をきらきらさせながら授業を聞いていました。

彼の母親は、理系の彼が日本語を勉強することを無意味だと考えているらしく、また別れた夫につながりのある日本語を息子に勉強させる必要もないと思っていたのか、彼の気持ちに答えようとはしてくれなかったようで、それでもどうしても日本語を勉強したいと思った彼は何とかお金を工面し、授業料を月賦払いにしてくれないか、懇願してきたのです。

そして、学校が開校した去年の10月、1期生の一人として、平日夜のコースで日本語の勉強を始めました。真面目で向学心に溢れる彼の吸収力はすさまじく、始めの3か月のコースを最優秀のA+で終えました。勉強を続けたいと言うものの、しかし、またここで「お金」の壁にぶち当たったのです。次のコースも3か月の月賦払いで、と言うのですが、その3回払いでさえ彼には払えません。どうしたものかと、考えたのですが、結局足りない分を私が奨学金という形で払ってあげることにしました。そして、2コース目も無事に勉強を続けることができることとなったのです。このコースでも彼はA+を取り、また同時に受験生でもあった彼は、この間に北部の名門チェンマイ大学工学部への合格を果たしたのです。

大学への入学が決まったことで、彼はしばらく日本語の勉強を休むことになりました。が、いつかまた日本語の勉強を再開したいと言って巣立っていきました。大学生になれば、大学に日本語の選択科目があるでしょうし、アルバイトなどもできるようになるかもしれません。彼自身が自分の手で将来を切り開いていけることを願ってやみません。

奨学金を手にした学生が目キラキラさせて勉強に励む姿を間近で見て、ずいぶん昔に奨学金授与式で奨学金を手にしたとたん泣き出したあの子供は今頃どこでどうしているのだろうか、キャンヘルプタイランドの活動の原点をとま言うべき出来事を、ふと思い出したチェンマイでの出来事でした。

西川 弘達

報告 1

～法人第 1 期（2015 年）総会報告&会計報告訂正～

貸借対照表

2016 年 1 月 31 日現在

(単位:円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
【流動資産】	20,269,701	【流動負債】	216,730
三菱 UFJ 銀行 1	6,962,995	未払金	16,730
郵便振替口座	8,405,049	前受金	200,000
タイ 現金	104,149	負債の部合計	216,730
タイ 普通預金 1	50,002	資 本 の 部	
タイ 定期 1	2,485,604	【剰余金(欠損金)】	20,052,971
タイ 定期 2	2,261,902	当期未処分利益(損失)	20,052,971
		(うち当期利益(損失))	△884,095
		資本の部合計	20,052,971
資産の部合計	20,269,701	負債・資本合計	20,269,701

損益計算書

自 2015 年 10 月 30 日 至 2016 年 1 月 31 日

経常損益の部		(単位:円)
【営業損益の部】		
【営業収益】		
【売上高】		
建設 寄付金	5,000	
その他 寄付金	119,000	
正会費	6,000	
売上高合計	130,000	
【営業費用】		
【売上原価】		
奨学金	41,400	
給食	69,000	
特別	169,050	
経費 奨学金	9,800	
経費 図書	5,500	
合計	294,750	
売上原価	294,750	
売上総利益(損失)	△164,750	
【販売費及び一般管理費】		
販売費及び一般管理費合計	90,143	
営業利益(損失)	△254,893	
【営業外損益の部】		
【営業外収益】		
受取利息	15,664	
営業外収益合計	15,664	
【営業外費用】		
割引料	2,025	
為替差損	642,841	
営業外費用合計	644,866	
経常利益(損失)	△884,095	
税引前当期利益(損失)	△884,095	
当期利益(損失)	△884,095	
前期繰越損益	20,937,066	
当期未処分利益(損失)	20,052,971	

販売費及び一般管理費内訳書

(単位:円)

委託費	11,040
通信費	14,423
消耗品費	2,960
事務用消耗品費	3,691
水道光熱費	1,740
支払手数料	3,240
地代家賃	40,490
郵送費	559
印刷費	12,000
販売費及び一般管理費合計	90,143

平成 28 年 3 月 27 日(日)に特定非営利活動法人キャンヘルプタイランドの第 1 期総会が行われました。法人化して最初の総会でしたが、活動期間が 2015 年 11 月から 2016 年 1 月までの 3 カ月間だけの活動報告になっています。将来的にはキャンヘルプタイランドを認定 NPO 法人に昇格させる予定となっておりますので、今期(法人 2 期目)はとても重要な年となります。奨学金プログラムの充実や山岳民族支援の見直し、カンボジア支援の模索などなど課題が山積していますが、皆様からお預かりした大切な寄付金を、より効果的に、より効率的に、恵まれない子どもたちに届けられるよう、これからも事務局スタッフ一同頑張っていきたいと思っております。本年度もよろしく願いいたします。

会計報告に訂正がありましたので合わせてご報告いたします。ご迷惑をおかけしました。

報告2

～サツケーオ県バンカオディン学校図書館完成式～

3月23日にサツケーオ県バンカオディン学校で行われた図書館完成式に参加してきました。

2015年7月に行われたワークキャンプの時に70%ほどまで出来上がった図書館でしたが、日本人ボランティアが帰国した後も現地の職人さんたちの手でコツコツと作業が進められ、2016年1月末に無事に工事が完了したそうです。

完成式当日は、サツケーオ県副知事・村長・国境イミグレーション・建設作業を手伝ってくれた軍隊・建築職人・

PTA等も参加し、盛大なセレモニーとなりました。子どもたちの踊りからセレモニーが始まり、副知事挨拶、



キャンの挨拶、関係者への感謝状贈呈、除幕式、図書館内覧会という順序で式典は進んでいきました。内覧会では、子どもたちの代表が図書館の使い方等を副知事に説明するというイベントも用意され、副知事は、緊張しながら説明する子どもの話を熱心に聞いていました。図書館の中には旧図書館にあった本の半分ほどが運ばれており、きれいにレイアウトされていました。残りの蔵書も近々新図書館へ移動するようです。

今回の図書館建設には80万バーツのお金がかかりましたが、そのうちの50万バーツをキャンが支援しました。残りの30万バーツは村人などの寄付により賄われています。将来的にはもう少し寄付を集めて図書館にエアコンも設置するつもりだと校長先生はおっしゃっていました。



報告3

～カサロンの家訪問～

チェンマイ県ドイサケット郡にあるカサロンの家を訪問してきました。カサロンの家では現在 19 名の山岳部少数民族出身の子どもたちが共同生活を送っています。今回の訪問は、ちょうど年度末の卒業シーズンに当たり、子どもたちの通っている小学校の卒業式にも参加することができました。山岳部少数民族の子どもたちの支援を始めて 10 年以上が経ちましたが子どもたちは確実に成長し立派になっていきます。学校のない山奥の村に住む親や兄弟・親戚の元を離れ、学校に近いこの寮で生活しながら懸命に勉強している子どもたちを見ると、こっちまで勇気をもらうような気がします。

カサロンの家は 2005 年にキャンヘルプタイランドによって建設され、昨年までチェンマイ県のラフー財団が運営していましたが、現在はラフー財団から独立した YCF (コースチャリティー財団) が運営をしています。YCF は、同じくチェンマイにあるエイズ孤児のための孤児院 (希望の家) とチェンライ県にある学生寮の、合わせて 3 つの寮の運営を行っています。どの寮も運営には、子どもたちの親からの寮費収入と個人や団体などいろいろなところからの寄付金収入だけを頼りにしており、決して潤沢な資金があるわけではありません。財団のトップであるタッサニーさんの私財もかなりの額が投入されています。キャンヘルプタイランドはタッサニーさんへ毎年 10 万バーツほどの支援をしてきましたが、ここ数年は山岳民族特別支援への寄付金の減少により、支援も 2015 年度は 6 万バーツほどになっています。カサロンの家の運営には年間 50 万バーツほどかかるということなので、これからの寮の安定した運営のためにはさらに多くの支援が必要です。YCF 側も運営努力を怠っているわけではなく、鶏を飼い採卵したり、キノコ小屋を作りキノコの収穫をしたり、養豚や果物の栽培をするなどして、少しでも子どもたちの食費を節約できるように頑張っています。また、寮母さんも子どもたちが学校へ行って留守の時間帯に帯を作る内職をしています。しかし、そのような活動は寮を管理する寮父母さんには大きな負担になるようで、寮父母が頻繁に交代するという問題も起きています。できることなら、タッサニーさんや寮父母さんには、お金の心配をすることなく子どもたちの世話に全力を注げる環境を作ってあげたいものです。

そこで、キャンヘルプタイランドではカサロンの家の新しい支援方法として、滞在型スタディーツアーを行うことにしました。カサロンの家に滞在しながら、山岳部少数民族のことを学んだり、家畜の世話をしたり、子どもたちと一緒に遊んだりして、現地の様子を肌で感じてもらうツアーです。山岳民族の村を訪れたり、ソウキャンプへ行ったり、お寺を廻ったりする観光的な要素も取り入れつつ、今までタイに行ったことのない人や従来キャンが行っていたワークキャンプでは労働があった参加に躊躇していた人など、タイ初心者・ボランティア初心者の方々にも安心してご参加いただけるツアーを企画します。このツアーでカサロンの家に泊まることで滞在費としてのお金を YCF へ支払うことにより、少しでも子どもたちの生活の足しになればと考えています。スタディーツアーの詳細は別紙をご覧ください。ツアーの日程はまだ確定しておりませんが、8 月下旬を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。



報告 4

～カンボジア小学校視察～

タイチェンマイ県カサロンの家の訪問とサッカーオ県バンカオティン学校の完成式出席の合間をぬって3月20日から22日まで一人でカンボジア小学校電撃視察に挑戦しましたので報告します。

3月20日早朝、チェンマイ国際空港からバンコク経由シムリアップ行きの飛行機に乗り込みました。チェンマイからバンコクは1時間半のフライトで、バンコク・スワンナプーム空港の乗り継ぎで2時間ほど待ち、その後カンボジアのシムリアップまでは1時間ちょっとです。正午にシムリアップ国際空港に到着しましたが、カンボジアの情報は何も無い状態で来てしまったので、空港から街に出るまでの交通機関さえわかりません。空港の出口ではたいていの場合タクシーの運転手がすぐに声をかけてくるのですが、そういう場合はほとんどがボッタクリ運転手です（経験上）。ですので、街までの公共交通機関を必死で探したのですが、どれだけ探しても見つかりません。一緒に飛行機で到着した他の人たちは、どんどんタクシーに乗り込み街の方へ消えていきました。そこで、空港のツーリストインフォメーションへもどり、街までの行き方を確認すると、タクシー：8ドル、3輪バイク：5ドル、バイクタクシー：2ドル、と書いた料金表を見せられました。タクシーは4名乗れるのでシェアすれば一人2ドルということですが、周りにシェアしてくれそうな人はもう誰もいません。貧乏性なのでバイクタクシーをお願いしようとするので、全車出払ってしまったので戻ってくるまで30分以上かかるとのこと。仕方なく5ドルを払って3輪バイクをお願いしました。3輪バイクも4名くらいの乗車は可能なので、シェアでもできれば一番割安ですが、今回は街までの10キロメートル弱の道のりを一人で3輪バイクの後ろに乗って移動しました。後で分かったのですが、シムリアップの空港からの街までの公共交通機関はまだ整備されていないとのことでした。お昼過ぎに、ネットで予約していた街中のホテルに到着しチェックインを済ませた後、あまり時間がなかったので、空港から送ってくれた3輪バイクの運転手と交渉し、そのままアンコールワットなどの遺跡群の観光へ連れて行ってもらうことにしました。3輪バイクの1日チャーターの相場は15ドルから20ドルということが後で分かったのですが、この時はとにかく時間がなかったので、運転手の言い値で半日20ドルという値段になってしまいました。おまけにアンコールワット遺跡群



の入場料は1日券で20ドルです。総額40ドルの贅沢ツアーでしたが、アンコールワットは、奈良の大仏を実際に見た時の感動の10倍の感動をくれました。奈良の大仏の参拝料を忘れてしまいましたが、20ドルの入場料はお得です。おまけに、アンコールトムなどのアンコールワット周辺にある遺跡にも入れるので、もし時間があれば1日ゆっくりかけて観光したいものです。一番暑い午後の観光だったのでかなり疲れてしまい、暗くなる前にホテルへ戻り、すぐに水シャワーを浴びて、ホテル近くの屋台で簡単な夕食を済ませ、夜10時には就寝しました。

宿泊したホテルはシムリアップの街の中心にあり1泊1,200円くらいですが、部屋にトイレとシャワーがついていて、広くはないですが清潔な感じです。ホテルの隣にオールドマーケットがありTシャツなどのお土産屋さんも、食事のできる屋台もたくさんありとても便利です。シムリアップのネソチエータホテルで検索してみてください。

次の日、いよいよカンボジアの田舎の小学校を視察するために、シムリアップから西へ300キロほどのタイとの国境にある小さな町サンパオルンを目指します。ホテルのフロントでカンボジアータイ国境の街ポイペトへ行くバスチケットを手配し、午前9時にバスに乗り込みました。さすがに国境へ行くバスは西洋



人の旅行者ばかりで、45人乗りのバスは満席です。このバスは長距離を走るのに料金はたったの5ドルです。途中の街で1度だけトイレ休憩をとり、バスはまっすぐ国境を目指します。地図を見てもらえるとわかるとは思いますが、シェムリアップの街から国境のポイペトまでは西へまさに一直線です。15年ほど前まではデコボコの土道で、途中でよく盗賊団が出ると噂されていましたが、今はきれいに舗装された快適な一本道です。ポイペトにはお昼に到着し、バスの他の乗客はそのままイミグレーションの方へまっすぐ進んでいきます。僕はみんなとは反対方向へ進み、ポイペトから南西へ80キロほどのところにある小さな街へ行く方法を探します。もちろん路線バスなどあるはずもないので、必然的にタクシーを使うことになるのですが、このタクシーが曲者です。公共交通機関の発達していない国では乗合ワゴンなどが唯一の交通手段になるのですが、乗合であるため、時刻表などは存在しません。基本的には車が満員になったら出発です。人が集まらなければ2時間待っても3時間待っても出発しません。1台丸ごとチャーターしてしまうことも可能ですが、その場合は人数分の料金を払うこととなります。素晴らしく合理的なシステムです。今回も「サンパオルンの街まで行きたい。」とタクシー運転手に伝えると、「チャーターなら85ドル、乗合なら15ドルだ。」と言われました。もちろん後者を選びます。もちろん、いつ出発できるかは誰にも分かりません。タクシー待合所（軒下にある普通の椅子）でそのまま待ちます。他にもタクシーを待っている人が5人ほどいますが、すべてカンボジア人で、トランプゲームなどをして時間を潰しています。みんな行きたいところが違うので、それぞれ目的地が同じ人が現れてくれるのを待っているのです。そのまま2時間ほど待っていたら、「この車に乗れ！」と突然指示されました。その車には運転手の他にすでに5人の乗客が乗っています。助手席に1人、後部座席に4人乗った普通の乗用車です。普通ならこれを定員オーバーといいます。どうやって乗るのか運転手に聞いたら、細身の女性2人が助手席に移動し、後部座席に4人で座りました。運転手を入れて合計7名乗車です。それですぐに出発するのかと思ったらそのまま30分ほど車内でまたされ、拳銃の果てには乗客の1人が突然下され、別のタクシーに連れていかれました。その後その人がどうなったかは誰も分かりません。元の6名乗車に代わったとたん、タクシーはおもむろに動き出しました。僕の目的地は運転手（運転手A）にちゃんと伝えてありますが、他の乗客に目的地を聞いてみると、僕のととは違っていています。不安は募りますが、もうどうしようもありません。なるようにしかなりません。そのまま、タクシーは午前中にバスで来た道を東へ15キロほど戻りちょっとした街に到着しました。そこで僕だけ下されました。僕の乗ってきたタクシーの運転手Aは、そこで待っていた別タクシーの運転手（運転手B）に二言三言話をして現金を渡したあと、走り去ってしまいました。僕は新しいタクシーの運転手Bに「ここで待っている。」と言われ、街角にあるガソリンスタンドのベンチに座られました。要するにタクシーの乗客の中で、僕だけは目的地の方向が少し違ったようです。そのまま待つこと1時間半、たまたま通りかかった別タクシーの運転手（運転手C）と運転手Bが話をして、僕は運転手Cのタクシーに乗ることになったようです。そのタクシーにはすでに4人の乗客が乗っていました。そのまますぐにタクシーは南西方向へ走り始めます。ちゃんと僕

の目的地と方向的にはあっています。途中の小さな村で他の乗客はどんどん降りていき、最後には僕一人になってしまいました。目的地にはまだ10キロほどあります。携帯電話にはGPS機能があるので、先に地図情報さえダウンロードしておけば、自分の現在地はすぐにわかります。もし、目的地ではない場所へ連れていかれそうになったらすぐにタクシーを止めようと、常に携帯の画面とにらめっこをしていました。結局、僕は、運転手Cによって無事に目的地に到着することができました。最初の15ドルが3人の運転手(ABC)にどのように配分されたかは謎のままです。まさにミラクルです。

夕方4時過ぎに、目的地のサンパオルンにある小学校に到着しました。昨年の8月にタイでのワークキャンプ中に少しだけ訪問した学校です。そのときはすぐ近くの現地の人しか使えない国境を使ってタイからカンボジアに入ったのですが、今回はビザを取り正式な国境を使って遠回りをしてやってきました。学校についてすぐに校長先生にお会いし、8月に撮った写真を渡しました。そして、職員室でこの学校のことや周辺の他の学校のことを少しインタビューしました。明日、周辺の小学校を案内してもらおう約束をして、この夜は学校の隣にあった小さなホテルに泊まることにしました。

翌早朝6時に学校横のホテルから夏のワークキャンプの時に通った国境まで行ってみました。歩いて500メートルほどなので、ちょうど良い散歩コースです。早朝にも関わらず国境はとても賑やかで、小さな子どもたちも荷役の仕事をしています。前回お世話になったカンボジア軍の人に写真を渡すために、本人の写真を見せながらウロウロして探しまわり、最後には居場所を突き止め、まだ寝ていたところを起こして写真を渡してきました。ちょっと迷惑そうでしたが、こうやって印象付けておけば、次回会ったときはちゃんと覚えていてくれるでしょう。ホテルまで戻り、ホテル前の屋台でおかゆの朝食を食べた後、子どもたちが登校し始めている学校へ行きました。学校では、昨日話した通り別の学校の先生が待っていてくれ、そのまま、大きな荷物は学校の職員室において、身軽な格好で迎えに来てくれた先生のバイクの後ろにまたがり、学校視察へ出発しました。

最初は、バイクで10分ほど走ったところにあるカーサダ学校に到着しました。生徒数361人、先生10人の中規模の小学校で、5教室の細長い平屋の校舎が一つあるだけの学校です。カンボジアの学校はほとんどが2部制で午前は1・2・3年生、午後は4・5・6年生というように2つに分かれているので生徒に対して教室や先生の本数は半分で済む計算です。ただ、1学年1クラスというわけではないので、2部制でもやはり教室不足になっているようです。



半日授業なので学校給食制度はなく、お腹のすいた子どもたちは校庭にある売店でお菓子やパンなどのおやつを買うことができるようになっています。しかし、子どもたちの中には裸足で過ごしている子ども多数みられ、少なからず経済格差はあるようで、学校に通うことすらできない子どもも多くいるだろうと想像できます。この学校では、この地区を管轄している教育委員会の方が待っていてくれて、その方は英語が堪能なので、とても丁寧に視察の対応をしてくれました。教育環境についての現時点での一番の悩みは、トイレや手洗い場の不足だそうです。この地方の学校の校舎は、2000年から2008年頃にかけて日本財団が資金をだしカンボジア政府の協力のもと整備したようで、校舎の壁にはちゃんと日本財団の文字がペイントされていますが、その時に一緒に作ったトイレは150人の生徒に対して校舎の外に2つだけしかありません。トイレの増設は早急な課題のようで、とても熱心に援助要請をされるので、試しにトイレ4つの建築見積を聞いてみたところ2,000ドルから3,000ドルということでした。30万円弱の支援になると思われます。正直、「そのくらいなら何とかなるかも。」と思ってしまいました。ということで、急ですがカンボジアトイレ支援募金を始めます。詳細は別紙をご参照ください。

次号へ続く

お知らせ

～プライバシーポリシーについて～

特定非営利活動法人キャンヘルプタイランドは、皆様から提供された個人情報を、個人情報保護法その他の関係諸法令にのっとり適切に管理します。

- 1、 個人情報とは、住所・氏名（漢字、かな）・電話番号・生年月日・メールアドレス・寄付の内容の直近及び過去の履歴とする。
- 2、 上記個人情報は、会の運営に必要な範囲で利用し、また、特定非営利活動法人等の監督官庁である名古屋市に対して活動実態の報告をする際に「寄付者名簿」や「社員（会員）名簿」として住所・氏名を報告することがあります。
- 3、 個人情報の管理はインターネットから遮断したコンピューターで管理し記憶媒体で外部に持ち出すときは理事の承認と監督のもとに行い、用件終了後には破棄します。

お知らせ

～特定非営利活動法人キャンヘルプタイランド～

キャンヘルプタイランドは特定非営利活動法人キャンヘルプタイランドとなりました。皆様からのご寄付の入金先だった郵便振替口座の名義が「キャンヘルプタイランド」から「NPO キャンヘルプタイランド」と変更になりますのでご注意ください。

寄付金・会費のお振込みは…

＜郵便振替口座＞

口座名：NPO キャンヘルプタイランド
番 号：00280-2-43793

運営委員会

(2016年3月～2016年4月)

活動	月日	場所	内容
総会	3月	事務局	総会
運営委員会	4月	事務局	完成式報告、奨学金授与式について

運営委員募集中！

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか？

通常は毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

編集後記

今年、タイは記録的な干ばつに見舞われています。もう、数カ月も雨が降っていないようで、特に北部チェンライ・チェンマイでは、野焼きやそこから類焼した山火事などでスモッグが発生し、普通に生活しているだけで喉が痛くなる状態でした。北部で雨が降らないのでバンコクの運河も水がなくなり、いつ断水してもおかしくない状態です。ソンクラーンの水かけ祭りで雨を呼べればいいですが・・・。

＜キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.73＞

発行 NPOキャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2016年5月1日
 住 所 〒450-0003
 名古屋市中区区名駅南2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN: 土曜の13～16時頃)
 E-mail: office@canhelp.jp
 ホームページ: http://canhelp.jp